

# 鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹  
松本 文雄



## 北海道西部のタンチョウについて

阿寒も冬を迎え、タンチョウが周辺に飛来し始めています。今年の給餌場はどんな状況になるでしょうか。

前号の鶴群（122号）で、札幌の東、20kmほどに位置する長沼町でタンチョウの繁殖し、「札幌圏で100年ぶり」と報じた新聞記事が紹介されていました。いままでタンチョウが居なかった北海道の西部でも、タンチョウの繁殖が見つかってきています。

千歳市や苫小牧市の東側に位置するむかわ町では2011年にタンチョウの飛来が確認され、2013年にヒナの子育てに成功しました。2017年に生まれたヒナには「318」番の環境省の足環が付けられました。

今年は、長沼町での繁殖のほか、10月1日には苫小牧市のウトナイ湖畔でタンチョウが繁殖したと日本野鳥の会が発表しました。日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリのレンジャーが5月下旬にヒナ連れの家族を見つけたそうです。タンチョウのヒナは人々の注目を集めやすく、しばしば人に追われることもあります。前述したむかわ町のタンチョウは2013年以降もヒナを孵していましたが、2015年には心無いカメラマンに追い回され、ヒナが水路に落ちて死んでしまうという事故が起きました。むかわ町ではその後、地元の自然保護グループが監視を行うようになっています。ウトナイ湖のタンチョウも人々が集まり、子育てに影響を及ぼすことを恐れて、10月まで発表を控えていたそうです。この周辺でのタンチョウの繁殖は約130年ぶりということです。

そして、さらに10月10日、千歳市でヒナを連れたタンチョウ家族が見つかりました。この親ツルの1羽には「318」番の足環が付けられていました。2017年にむかわ町で生まれたオスが、3歳で親になったのです。3歳での繁殖はかなり早い方ですが、過去にも数例

見つかっています。若いオスですが、上手に子育てができたようです。この家族がどこで巣をつくっていたのかは分かりませんが、10月のヒナはまだ十分に飛べないでしょうから、遠くから来たのではない、と考えられています。

これからもこの地域でのタンチョウは増えてくるでしょう。阿寒や鶴居の保護活動が実らせた成果ともいえると思います。ただ、人との軋轢も起きてくるでしょうから、保護団体の役割はますます大切になってくると思います。



千歳市で見つかった318家族（正富欣之氏撮影）

## ツルが食べた魚はどこへ行くのか

釧路市動物園 ツル担当主査  
吉野 智生



毎度唐突ながら、人間をはじめとして生物は何かを食べて生きています。食べた物は口から喉（のど）を通り、食道を通って胃に入ります。哺乳類は口の中でかみ砕いて細かくしてから飲み込みますが、鳥は歯がないので食べ物を丸呑みにします。鳥の口の中には舌があって、舌の根元に気管の入り口があります。これは呼吸のたびにパクパクと開いたり閉じたりします。食道の入り口はその後ろで、口の一番奥になります。人間でも飲み込みそこねてむせることがあります。鳥は大丈夫なのか心配になるところですね。タンチョウが大きめの魚を丸ごと飲み込んでいるところを見ると、ちょっと大変そうに見えます。ただ無理なら吐き出しますし、あとで見ればたいていケロッとしているので、あまり心配しなくてもいいでしょう。ただ、オオハクチョウでは食パンを喉に詰まらせたなんて事例もありますので、時と場合によります。またケガをしたり弱ったりして自分で食べない鳥に強制的にエサをやるときは、きちんと口の奥に突っ込んでやらないと、気管に入って誤嚥（ごえん）させてしまうことがあるので要注意です。

食道は柔軟で、何も入っていなければ平たいままです。ちょっと細かい話になりますが、食道など内臓や血管の筋肉は平滑筋（へいかつきん）と呼ばれていて、腕や脚などの筋肉である横（おう）紋筋（もんきん）とは少し違います。横紋筋は自分の意志で動かすことができますが、平滑筋は自分では動かせません。例外として心臓は横紋筋ですが、心臓も自分では動かせません。食道は何かを飲み込んだ時にだけ広がるのですが、かなり柔軟なので、大きなものも飲み込むことができます。

食道は喉を過ぎると、気管と並んで首の右側を通ります。ニワトリなどのキジの仲間やハトの仲間、インコやタカの仲間は、のどの下あたりに、食道の一部が袋状に広がった嚙（そ）嚢（のう）と呼ばれる器官を持っていて、一時的にエサなどをためておくことができます。タンチョウは嚙嚢を



矢印の先が魚がいるところ

持ちませんが、魚などの大きなものを飲み込んだ後には首の一部がふくらんで、ゆっくりと下がっていくのが確認できます。なので、採餌中に喉元や首をよく見ていると、ああ、今何か食べたな、のみこんだなというのがわかります。近くで見る機会があったらよく観察してみてください。ただ、給餌場のトウモロコシはちょっと小さいので、わかりにくいかもしれません。